学校番号	2002

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新課程　新編　数学Ｃ　（数研出版）						
副教材等	３ROUND 数学Ｃ　（数研出版） チャート式　解法と演習　数学Ⅱ＋B＋C						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学は公式を覚えるだけでなく、本質を理解し考え方を学ぶことが大切です。授業では課題に対して自ら考える活動を中心に行います。そして様々な考え方に触れ、より良い解決の過程を深めましょう。次に数学では多くの問題を解くことが重要です。問題集と問題集用のノートを用意し、たくさんの問題を解いてください。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も見直しのときにわかるように丁寧に書くことです。また答え合わせは答えのみでなく、途中式や説明も含めて見直しをきちんとしてください。自分がどこでつまずいたかを知るための答え合わせです。間違えた問題・理解不十分の問題はもう一度チャレンジし、何も見ずに自分の力だけで解けるようになるまで何度も繰り返し学習してください。数学の力は繰り返し学習で伸びます。家庭学習としての課題は定期的に課すので、毎授業後に復習としてコツコツと取り組みましょう。提出物は担当の先生の指示に従って必ず提出しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
「ベクトル」「複素数平面」「式と曲線」における基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるよう、またそれらを活用できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
数学を問題の解決に活用する態度を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養っている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　平面上のベクトル	第１節　平面上のベクトル １　ベクトルとその意味 ２　ベクトルの演算 ３　ベクトルの成分 ４　ベクトルの内積	a:ベクトルの演算ができ、実数倍と平行の関係を理解している。成分表示されたベクトルの大きさを求め、演算ができる。内積を用いて、２つのベクトルのなす角を求めることができる。 b:ベクトルを成分表示で表した場合の演算について、その考え方や意味を考察できる。 c:向きと大きさをもつ量に関心をもち、ベクトルの基本的な概念や性質を調べようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物
		第２節　ベクトルの応用 １　位置ベクトル ２　ベクトルの図形への応用 ３　ベクトル方程式	a:位置ベクトルの意味を正しく理解し、分点の位置ベクトルを求めることができる b:位置ベクトルを用いて図形の性質を多面的に考察することができる。 c:位置ベクトルに関心をもち、図形の考察に活用したり、多面的に調べたりしようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物
2学期	第2章　空間のベクトル	第１節　空間のベクトル １　空間の座標 ２　空間のベクトル ３　ベクトルの内積 ４　位置ベクトルと空間の図形	a:空間においてもベクトルが定義でき、平面上のベクトルと同様に扱えることを理解できる。 内積を用いて、空間の２つのベクトルのなす角を求めることができる。 b:平面のベクトルから類推により空間のベクトルの性質を数学的に考察し表現することができる。 c:空間のベクトルに関心をもち、その基本的な概念や性質を調べ、空間の図形の考察に活用しようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物

	第3章 複素数平面	第１節　複素数平面 １　複素数平面 ２　複素数の極形式 ３　ド・モアブルの定理 ４　複素数と図形	a:複素数の和・差・実数倍の図表示の仕組みを理解している。複素数を極形式で表すことができ、極形式による積や商を理解している。ド・モアブルの定理とその使い方を理解している。 b:複素数の和・差は点の平行移動や平行四辺形の頂点として表されることを考察できる。極形式による複素数の乗法や除法の仕組みを考察できる。 c:複素数平面に関心をもち、複素数の図表示や絶対値および極形式について理解しようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物
3学期	第4章 式と曲線	第１節　２次曲線 １　放物線 ２　楕円 ３　双曲線 ４　２次曲線の平行移動 ５　２次曲線と直線	a:２次曲線の方程式から焦点、準線、軸、頂点を読み取れる。２次曲線の平行移動を理解して、平行移動した後の方程式から焦点、準線、漸近線、軸などを求められる。 b:幾何学的な条件を方程式で表現し、その方程式を処理することで２次曲線の性質を考察できる。 曲線の平行移動を方程式で表現できる。 c:２次曲線に興味・関心を示し、その方程式を求めようとする。双曲線と直線の位置関係についてどのような場合があるか図示して調べようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物
		第２節　媒介変数表示と極座標 １　媒介変数表示 ２　極座標 ３　極方程式 ４　いろいろな曲線	a:極座標の意味や極座標と直交座標の関係を理解している。直交座標x、yの方程式と極方程式を相互に変換することができる。 b:条件を満たす点の軌跡を媒介変数で表し、その特徴を考察することができる。図形を極座標の考え方や見方を用いて表現し、その特徴を考察できる。 c:コンピュータソフトを用いて、媒介変数表示された曲線を描いて理解しようとする。	定期考査 確認テストなど	定期考査 確認テストなど	授業態度 提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度